

第5回 ヨコハマ3R夢地域ふれあいフェスタ報告

第5回 ヨコハマ3R夢地域ふれあいフェスタが開催されました!

平成24年11月25(日)資源循環局港北事務所において、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の啓発イベントが開催されました。横浜市が取り組んでいる3R夢プランの一環で、フリーマーケットや分別ゲーム、リユース家具無料提供のほか、自治会町内会の飲食ブースも並び、盛りだくさんの内容で、地域の方々とはふれあいながら、ごみと資源の減量に役立てようとする催しです。

大盛況! リユース家具無料大抽選会

当日は、リユース家具無料大抽選会が行われ、約50点ものいろいろな家具類が必要とする方々に引き渡されました。もともと粗大ごみとして処分されるはずだった家具類が、また他の方のもとで、生まれ変わることにより、3Rの一つのリユースが進みます。これを機に港北事務所では、敷地内にあるコンテナハウスを利用して、このリユース家具展示場を定期的にオープンさせました。申込み多数の場合は抽選を行い、家具を無償で提供します。多くの市民に気軽に立ち寄っていただき、物を大切にすることを育んでもらい、地域に根差した収集事務所を目指すとともに、3R夢プランの推進をしています。そして、さらに今年1月14日(月)からは、同じコンテナハウス内にリユース文庫もオープンしました。市民の皆様がセンターリサイクルで持ち込んだ古本(単行本、文庫本、専門誌、刊行本など)をなるべくきれいな状態に手入れをして、また読んでくれる方を心待ちにして、棚に並んでいます。お出かけついで、お散歩ついでに、是非、お立ち寄りください!!



港北エコアクション通信

Let's enjoy KOHOKU eco life! 発行：港北エコアクション推進本部事務局 | 港北区区政推進課企画調整係 港北区地域振興課資源化推進担当 Tel: 045-540-2229 Fax: 045-540-2209 Tel: 045-540-2244 Fax: 045-540-2245



フィリピン共和国イロイロ市と港北区の交流がスタート!

港北区では、平成16年から子どもたちに鶴見川を中心とした地域の豊かな自然環境について知ってもらい、地域に愛着をもってもらうために、小学生を対象とした体験型の環境学習「港北水と緑の学校」を実施しています。昨年、フィリピン共和国イロイロ市で開かれた「第1回フィリピン国際リバーサミット(5月31日-6月1日)」において、「港北水と緑の学校」を日本の代表的河川に関する環境学習の取組事例として紹介したことをきっかけに港北区とイロイロ市との交流が始まりました。11月にはそのイロイロ市からコミュニティ防災にかかわる行政職員等が「横浜市の防災対策」等の研修*を受けるため、横浜市とアジア太平洋都市間協力ネットワーク(CITYNET)の招聘により来浜しました。港北区としても「港北水と緑の学校」を運営しているNPO法人鶴見川流域ネットワーク(TRネット)や京浜河川事務所等とともにこの研修に協力し、「コミュニティレベルの防災対策」や「河川のマネージメントと環境教育の推進」についてレクチャーしました。

源流から河口まで!鶴見川流域全域を視察!

今回の研修では河口(鶴見区生麦)から始まり、中流(港北区綱島、小机)、源流(東京都町田市)と鶴見川を遡りながら、鶴見川の河川のマネージメントの現場を見学してもらいました。鶴見川は水質汚染や洪水の歴史があり、イロイロ市を流れるイロイロ川との共通点も多くあります。港北区の綱島で行われた研修ではTRネットが企画する鶴見川の清掃・自然観察会に参加し、「環境」や「防災」をテーマとした地域づくりの工夫について学びました。子どもを対象とした川の生きもの観察プログラムを通じて、保護者である大人たちも鶴見川に親しんでもらう取組について、真剣に解説を聞く様子が見受けられました。新横浜多目的遊水地のダイナミックな治水対策だけでなく、源流での地道な森の保全活動や近隣住民の河川に対する理解を深める活動など、市民との協力が不可欠であることを学びました。



港北区とイロイロ市の国際交流を推進

港北区では来年度以降、アジア太平洋都市間協力ネットワーク(CITYNET)や政策局国際政策課がイロイロ市で進める「フィリピン共和国イロイロ市におけるコミュニティ防災推進事業」と連携しながら、「港北水と緑の学校」で培ってきた環境学習のノウハウを生かして、国際協力を進めていく予定です。
*横浜市とアジア太平洋都市間協力ネットワーク(CITYNET)は、平成24年度からの3か年事業として、JICA草の根協力事業(地域提案型)「フィリピン共和国イロイロ市におけるコミュニティ防災推進事業」を実施しています。この事業では、イロイロ市において災害が起きた時(特に洪水時)にコミュニティが自助・共助により災害に対応できるよう、住民の意識を高め、コミュニティの防災力の向上を図るとともに、ひいてはイロイロ市全体の災害応対力を強化していくことを目的としています。

イロイロ市概要

フィリピン共和国イロイロ市は首都マニラから飛行機で1時間ほどの距離にあるバナ島南部の都市で、イロイロ州の州都。人口は約35万人(フィリピンで9番目に人口の多い都市)。以前は農業の中心地(プランテーションなど)でしたが衰退し、国際商業港の建設などを機に1980年代から復活を遂げました。イロイロ市と港北区は人口や川との関わりなど多くの共通点があります。

■ほくほく農業再発見+

今回は新吉田でイチゴを栽培し、収穫体験農園もされている森勝喜さん取材しました。

港北区でイチゴ狩りができる!

～イチゴの栽培を始めたきっかけは?

収穫体験ができる観光農園を開くためです。もともとハウス栽培のトマトで収穫体験を行っていましたが、種類を増やすに当たって目をつけたのがイチゴでした。もともと露地でイチゴを栽培していましたが、数年前からハウスでの高設栽培※を行うようになりました。
※高設栽培…(イチゴを)高い場所に植えて栽培すること。一般的には土を入れたポットやプランターにイチゴを植えるに載せます。

～どんな方がよくいらっしゃいますか?

収穫体験に来る年齢層は若い親子連れや高齢の方で、ときには一度に50人も来ることがあります。体験に来た方はイチゴを食べるのを楽しむだけでなく、写真を撮って畑の雰囲気を楽しんだり様々な楽しみ方をされています。見た目のキレイさや、第一印象が大切なので、掃除は欠かせません。車イスの方でも気軽に楽しんでいただけるように地面を平らにならし、通路を広く取りました。

新しいやり方を追求

～1年間の流れを教えてください。

ハウス栽培のイチゴは4月頃から苗作りを始めます。伸ばしたランナー(つる)を切り離し、ポットで育てていきます。9月から苗を植え付け、防寒対策をしながら育てていきます。12月頃から春先まで収穫することができます。近年は新鮮なだけでは消費者を満足させることができなくなっているため、身が締まり味のしっかりしたイチゴを作ることを心掛け、差別化を図っています。また、味の追求のための新しい栽培方法を日々研究しています。現在行っている高設栽培の培地には「有機培地」という手法を取り入れています。この手法は全国的にもまだ普及しておらず、試行錯誤を重ねながら取り組んでいます。有機栽培を行って、近所の神社の落ち葉を1年かけて肥料にするなどの工夫をしています。イチゴは収穫体験のほか、直売や近隣のスーパーなどに出荷しています。地方のブランドものより地産地消の地場もののほうが良いと思ってもらえるように、安定した品質の物を提供することを心掛けています。卸しているスーパーの中にはすでに20年くらいのお付き合いがあるところもあります。長く続けていくためには信頼を勝ち取る必要があると思っています。

※ハウスの栽培には大きく分けて「土耕栽培」と「養液栽培」があります。土耕栽培とは土で行う栽培のことで、養液栽培とは土を使わずに肥料を水に溶かした液(培養液)によって作物を栽培する栽培方法です。養液栽培には「水耕栽培」、「礫(れき)耕栽培」、「ロックウール栽培」という細かい分類があります。水耕栽培とは土を使わずに、植物の根を水に浸すような装置で栽培する方法、礫耕栽培とは土の代わりに礫(2mm以上の小石)を使い、水や養分を管理して行う植物の栽培方法、ロックウール栽培とは天然石などを高温で溶かした後に繊維化したもの(石綿)を用いた栽培方法です。「有機培地」にはいくつかのやり方があり、森さんが行っている方法は「土耕栽培」と「ロックウール栽培」を合わせたものです。



森 勝喜さん

”今採れ”

～今後の目標、意気込みを教えてください。

将来的には「見せて売る」という農家を目指していきたいです。単なる直売ではなく、お客さんから見えるところに畑があって、注文を受けてから収穫するという展示販売のような仕組みを作って、「朝採れ」ならぬ「今採れ」を売りにできるように農家をやりたいと考えています。お客さんに来てくれている様子を見てもらいたいですね。また、観光農園をより充実させて、地域の方に地元の農産物の良さをもっと知ってもらえるようにもしていきたいと思っています。

収穫体験時期

イチゴ: 1月から5月まで
トマト: 11月から7月まで

※収穫体験ができる時期は年によって異なりますので、収穫体験をご希望の方は下記の間合せ先にお電話で必ずご確認ください。



イチゴ(品種:紅ほっぺ) 甘くて大きく実がしっかりしています。



トマト(品種:桃太郎) これから徐々に赤くなっていきます。

森農園までのルート



問い合わせ: 森農園〈港北区新吉田町〉 TEL: 045-592-7034 (直売/摘み取り)

■港北エコパーソン

〈トランジションタウンよこはま〉

トランジションタウンよこはまは昨年2012年4月にたった3人からはじまりましたが、毎月開催される集まりには多様な方々が参加し、徐々に輪を広げています。トランジション・タウンの活動は、市民が自らの創造力を発揮しながら、地域の底力を高めるための、実践的な活動です。～日々の暮らし方をほんの少し変えるだけで、楽しく豊かに、そして自由になれることで～日本全国、世界各地にその意識に共感した人たちがそれぞれの地で地域とのつながりを自然と共存しながら、自分の持っている得意な技術を共有したりして実践しています。神奈川にも藤野、葉山、鎌倉をはじめとして多地域で展開し、都市型トランジションタウンとして「よこはま」も昨年スタートしました。より地球に、自然に、人に優しい暮らしと一緒に楽しく作りたい方、是非ご参加ください! トランジションタウンよこはま
https://sites.google.com/site/ttykhm
NPO法人トランジションジャパン
http://transition-japan.net

毎月大倉山ミエル(カフェ)などを利用してこんなことをしています。
・映画の上映会や食事会
・ワークショップの開催
・有機栽培の畑のお手伝い



大倉山ハッデン

大倉山ハッデンは昨年の8月にトランジションタウンよこはま主催で開催し、24名の方が参加。講師の藤野電力さんに教わりながら5組の方が実際にソーラーパネルキットを組み立て、その日からご自宅でハッデンを開始しました! 午後には防災ワークショップも開催しました。多世代でつながる学びをシェアする場としてこれからも機会があれば大倉山、そして横浜各地域で開催します。大倉山ハッデン
http://o-hatsuden.jimdo.com/



映画上映会を開催します!

3月はドキュメンタリーを上映します。「happy-しあわせを探るあなたへ」



期間: 3月18-24日の1週間
※20日は国連の定める「HAPPY DAY」
場所: 大倉山記念館/大倉山ミエル
サイト: http://happymiel.jimdo.com/
問い合わせ: 大倉山ミエル 045-717-6778

ひかりの実カフェ

昨年12月16日にはひかりの実カフェが開催されました。夏に大倉山ハッデンの講師としてお越しいただきました藤野電力さんに、持続可能な暮らし方、自家発電とのつきあい方、それについてのマインドセットの変化などについてのお話してワークショップも開催しました。市民科学研究室の先生による「LEDとナノテク、これからの照明のあり方」についての講座もありました。開催前、当日はひかりの実をつくろう!も開催し、子供たちや地域住民の方達に～HAPPY～しあわせを表現してもらいました。



■TOPICS

地産地消でエコマーケット

昨年11月30日(金)と12月7日(金)に高田地域ケアプラザで地元農産物の直売が行われました。区内の直売所グループがホウレンソウやカリフラワー、柿など旬の野菜や果樹、ドラゴンフルーツなどの珍しいものまで幅広い地元農産物を出品していました。2日間とケアプラザで実施している子育てイベントとの同日開催で、港北区のヘルスメイトの方による「野菜レシピ」の配布や試食コーナーも行われ、開催時間中は途切れることなくお客さんが来ていました。



日食メガネをアフリカへ送ろう!

2011年5月21日に横浜を始めとする日本列島の多くの場所で金環日食が観測されましたが、2013年11月にガボン、コンゴ共和国を始めとするアフリカ中央部で金環日食(一部地域では皆既日食)が観測されます。港北区では今年6月に横浜でアフリカ開発会議(TICADV)が開催されることに合わせて、金環日食が観測される地域に日食メガネを贈る予定です。3月2日に日産スタジアムで行われた横浜F・マリノスのホームゲーム開幕戦で回収BOXを設置しました。今後は港北図書館(平成25年4月23日～6月3日)やトレッサ横浜(平成25年5月10日～27日)や横浜市大倉山記念館(平成25年5月20日～6月3日)、港北区役所(4月23日～6月3日)で回収BOXを設置しますので、ご協力をお願いいたします。詳細については、下記連絡先にお問い合わせください。



問合せ: 港北区区政推進課
企画調整係
TEL: 045-540-2229
FAX: 045-540-2209
Email:
ko-kusei@city.yokohama.jp

「港北・鶴見エコキャラクター大集合」が開催されます!

平成24年3月16日(土)にトレッサ横浜リオン広場で港北区や鶴見区のエコキャラクターを集めたイベント「港北・鶴見エコキャラクター大集合」が開催されます。このイベントでは港北区のミズキや鶴見区のワックンを始め、「ヨコハマ3R夢(スリム)！」マスコットのイーオやミーオ、水道局のキャラクター「はまびよん」といったキャラクターが登場し、会場を盛り上げます。また、3R夢戦隊シボレンジャーやNPO法人鶴見川流域ネットワークによる人形劇なども行われ、楽しく環境の取組を紹介します。詳しくは下記連絡先にお問い合わせ下さい。

日時: 平成24年3月16日(土)
場所: トレッサ横浜北棟2階リオン広場
時間: 10:00～17:00
問合せ: 港北区区政推進課企画調整係
TEL: 045-540-2230 FAX: 045-540-2209

